



練馬区体育協会ニュース

加盟 (財) 東京都体育協会

創立 昭和24年10月(1949)

第11号

発行 昭和55年2月20日



一般の部 優勝の西武鉄道

第三十二回練馬区民体育大会
スキー・スケート競技を
最後に全日程を終了

八月の競技を皮切りに開始された区民体育大会は、順調に各競技を消化、長期間にわたっていた、軟式野球、サッカーも十二月に終了、一月、スキー、二月のアイス・スケートでもって、全日程を終了した。その参加者も前年に比して大巾に増員されると共に、各記録も上昇、大きな成果をあげた。長期にわたる、関係各方面の協力、競技を担当した役員各位に、紙上より厚くお礼申し上げます。

陸上競技

※ 優勝者のみ

十月三十一日、中大ランド跡地
参加 六八三名

◎ 中学男子

一〇〇米 瀬永博人 石東

八〇〇米 守屋剛 貫井

三〇〇〇米 山田泰治 練馬

八〇〇米リレー 関中

走巾跳 伊与木昇 石東

走高跳 大島浩 開一

砲丸投 尾崎勝史 関

◎ 中学女子

一〇〇米 中津愛美 貫井

八〇〇米 橘正子 関

四〇〇米リレー 貫井中B

走巾跳 久保田和恵 石西

走高跳 四米八六 関口育代 貫井

◎ 高校男子

一〇〇米 岡田雅次 保善

四〇〇米 斎藤一哉 武蔵

一五〇〇米 慶徳仁史 井草

五〇〇〇米 中原良

八〇〇米リレー 石神井高A

走巾跳 田代秀之

走高跳 五米七五 小林悟 光丘

砲丸投 加藤源八 保善

◎ 高校女子

一〇〇米 高原節子 光丘

四〇〇米リレー 光丘高

走巾跳 八〇〇米 會根幹子 日大二

走高跳 二米三三秒六 木俣みゆき

- 3 寺田 秀子 (大妻女大)
- 丸山 啓子 (春日)
- 男子ダブルス
- 1 新田・木村組 (春日)
- 2 松浦・等々木組 (春日)
- 3 風岡・水野組 (練馬クラブ)
- 篠・関谷組 (春日)
- 女子ダブルス
- 1 松田・川崎組 (二般)
- 2 白倉・若賀組 (練馬)
- 3 大友・梁瀬組 (二般)
- 松本・寺田組 (二般大妻)
- ミックス
- 1 小林・大江 (道) 組 (春日)
- 2 高田・大江 (鶴) 組 (春日)
- 3 風岡・芳賀組 (練馬)
- 新田・新田組 (春日)
- 三〇才男子
- 1 高田・真鍋組 (春日)
- 2 藤巻・松浦組 (春日)
- 3 川崎・三浦組 (自衛隊)
- 久野・星野組 (KBC)
- 三〇才女子
- 1 白倉・芳賀組 (練馬)
- 2 渡辺・中山組 (エーデル)
- 3 藤木・梶尾組 (エーデル)
- 小池・高橋組 (エーデル)
- 四〇才男子
- 1 宇田・四方組 (二般)
- 2 市川・川原田組 (練都協)
- 四〇才女子
- 1 浅井・石川組 (エーデル)
- 2 石井・和田組 (エーデル)
- 3 伊藤・馬場組 (エーデル)
- 井出・伊藤組 (エーデル)

- 男子初心者
- 1 大橋・千村組 (下石神井)
- 2 中沢・鉄守組 (二般)
- 3 佐藤・横山組 (二般)
- 女子初心者
- 1 深野・大野組 (アイリス)
- 2 沢野・松村組 (アイリス)
- 3 佐藤・鈴木組 (練馬)
- 佐藤・橋本組 (二般)
- 中学生・男子
- 1 赤川・森田組 (大西中)
- 2 高瀬・近藤組 (大西中)
- 3 西勝・高久組 (大泉北中)
- 小林・菅原組 (大西中)
- 中学生・女子
- 1 石岡・岩永組 (大西中)
- 2 池田・都築組 (大西中)
- 3 熊沢・木村組 (八坂中)
- 神田・菅原組 (尖四中)

- 安田 正 武徳会
- 松本 進 常心門
- 下園 亮 武徳会
- 渡辺 武 武徳会
- 有級者・個人戦
- 1 六戸一博 武徳会
- 2 広光善照 武徳会
- 3 若狭仁知 日本大
- 服部秀治 日本大
- 優秀選手
- 高木 登・植松倫樹
- 山之内豊・藤沢直治
- 高校生・個人戦
- 1 黒田 桂樹 系東会
- 2 大波多正伸 武徳会
- 3 渡辺 薫 武徳会
- 三浦 俊雄 武徳会
- 優秀選手
- 遠藤克己・伊藤秀樹
- 佐藤義浩・長塚浩三
- 中学生・個人戦
- 1 徳力太一郎 武徳会
- 2 新園 敦浩 武徳会
- 3 高麗健一郎 武徳会
- 小西 覚 武徳会
- 優秀選手
- 石田浩二・高松信行
- 大砂博之・千葉 達
- 小学生上級・個人戦
- 1 岩隈 淳悟 武徳会
- 2 丹下 勝之 武徳会
- 3 宮越 雄一 武徳会
- 盛谷 亮二 武徳会
- 優秀選手
- 花岡 論・若生真一郎

- 江原尚之・陶山 健
- 小学生下級・個人戦
- 1 根岸 義春 武徳会
- 2 長島 秀之 武徳会
- 3 磯野 勲 系東会
- 白岩 淳司 武徳会
- 優秀選手
- 鈴木淳作・徳田真也
- 司見健一・本間一臣
- 型の部
- 男子有級者
- 1 下園 亮 武 二四・九
- 2 渡辺 武 武 二四・八
- 3 杉田哲人 武 二四・六
- 男子有級者
- 1 白鳥昌一 常 二二・〇
- 2 永岡泰則 武 二二・〇
- 3 富山俊幸 日 二二・九
- 女子
- 1 細谷ひとみ 武 二〇・六
- 2 田村 康常 二〇・四
- 3 黒部聖子 常 二〇・四
- 高校生
- 1 中村哲也 武 二二・九
- 2 渡辺 薫 武 二二・四
- 3 遠藤浩一 練 二二・七
- 中学生
- 1 渡辺一弘 武 二四・八
- 2 徳力太一郎 武 二四・七
- 3 新園敦浩 武 二四・四
- 小学生上級
- 1 矢島 忠 武 二三・二
- 2 陶山 健 武 二三・二
- 3 宮越 雄一 武 二三・〇

- ローリースケート競技
- 十二月二日 豊島園リンク
- 参加人員 一一三名
- スピード競技
- 小学生一、二年 女子
- 1 藤田 美紀 二六秒四
- 2 相良 早苗 二六秒九
- 3 吉田 陽子 二七秒三
- 小学生一、二年 男子
- 1 鍋島 豊 一七秒二
- 2 岡田 崇 一九秒六
- 3 竹田 秀昭 三七秒一
- 小学生三、四年 女子
- 1 丹下 勝代 三四秒六
- 2 佐藤 和美 三六秒三
- 3 渡辺さおり 三九秒四
- 小学生三、四年 男子
- 1 吉原 誠一 三三秒八
- 2 和田 武志 三三秒一
- 3 藤本 優貴 三三秒七
- 小学生五、六年 女子
- 1 佐藤 尚子 三三秒三
- 2 鳥淵 桂子 三六秒八
- 3 中端 浩子 三九秒六
- 小学生五、六年 男子
- 1 土田 晋司 四八秒九
- 2 井達 晴夫 五七秒〇
- 3 大西 毅 六八秒一
- 中学生 男子
- 1 福士 健 一分〇二秒三
- 2 田原 博史 一分〇二秒六
- 3 四釜 晃浩 一分〇五秒七
- 一般 女子
- 1 石井しげ子 五三秒二
- 2 江口 久子 五五秒九

- 3 稲垣美由紀 一分〇四秒九
 ・一般 男子
 1 駒井 恵 一分〇三秒四
 2 増田 康夫 一分〇六秒四
 3 市村 友次 一分一九秒三
 ・登録競技男子五〇〇米
 1 西村 孝司 一分一六秒九
 2 山田 和郎 一分一七秒一
 3 西村 祥一 一分一七秒六
 ● フィギュア競技
 1 及川 和子 三二・〇
 2 市川みどり 二八・〇
 3 室町 佳恵 二二・六
 ● ホッケー競技

西友クラブ 4 { 0-1 } 2 日本
 4-1-1 } 2 大学

後記

豊島園のご協力により、十一月、日曜、祭日の午前中を使用して、区民教室を開催した所、定員一〇〇名に対し、三三〇名の申込を見ました。やもうえず定員を一五〇名に増やすやら、指導員の増員を行うやら、大騒ぎでした。ローラースケート・プームの関係でしょうか、参加者の年齢層が高く、約半数が一般であったのも、本年の特色でした。区民大会も、例年より多くの方が参加、加えて時間的余裕がとれ女子フィギュア・フリー競技に加えて、西友対日大のホッケー競技まで出来たことは本当によかったと思えます。

岩波教育長・身体育課長も見え、我々競技を見ていたけたことも意義があったと思えます。

唯、残念なことは、区内に一つしかないこの豊島園ローラースケートリンクが、取りこわされることです。他に施設がなく、今後の区連盟としては、全く手のうちようがありません。豊島園に再びリンクが建設され、区民大会が開催出来るよう、心から祈願する次第です。(田代)

サッカー競技

九月十六日より十二月十六日
 中大グラウンド跡地・外五会場
 参加 一三五〇名

● 小学生二部(五年以下)
 二六チーム出場

準々決勝 ↓

- 立野同好会 1-0 早宮少年
 南野キッカー 3-2 立野同
 大六ハデタム 1-1 学大附小
 PK 3-0

準決勝 ↓

- 石神井東 10-0 練馬小
 南野キッカー 2-1 立野同
 石神井東 4-3 大六A
 三位決定 ↓

大六A 5-0 立野同

決勝 ↓

- 南野キッカー 1-1 石神井
 ース A 1-1 東サッ
 1-0 カ-少
 1-0 年団

● 小学生一部
 三〇チーム出場

準々決勝

- 石神井東 1-0 石神井台
 早宮少年団 1-0 練馬小
 豊東小 0-0 豊二
 PK 4-3

準決勝

- 学大附小 2-0 大四小
 石神井東 3-1 早宮少
 学大附小 3-2 豊東小
 三位決定

早宮少 3-2 豊東小

決勝

- 石神井東 2-0 学芸大附
 サッカー 3-0 小A
 ● 一般の部
 三四チーム参加

準々決勝

- 中村クラブ 5-1 マリーネ
 旭町 4-2 蹴友会
 内野工務店 0-0 通研
 練馬クラブ 3-0 ニース

準決勝

- 中村クラブ 2-1 旭町
 練馬クラブ 2-0 内野
 三位決定

旭町 1-0 内野

決勝

- 中村サッ 0-0 練馬ス
 カークラ 2-0 1ポ-ツ
 1-1 クラブ

ライフル射撃競技

十二月十七日
 朝霞オリンピック射場

参加 五十六名

● ARS四〇

1 大門 省吾 三五五点

2 奥寺 教人 三四三点

3 斎藤 丈夫 三四一点

● ARJS四〇

1 伊藤 彰男 三四八点

2 高城 幸晴 三四四点

3 大木 茂信 三一六点

● FSBP六〇

1 唐沢 睦 五六八点

2 川崎 章 五六七点

3 山田香太郎 五五八点

● FSB3P六〇

1 川崎 啓之 五三四点

2 香西 俊輔 五一七点

3 先山 勇 四九七点

● ARP六〇

1 唐沢 睦 五五五点

2 山田香太郎 五五五点

3 高田 康男 四七二点

● AP 四〇

1 三浦 晃 三六四点

2 内田 英昭 三四二点

3 大友 英男 三三〇点

● AR 四〇

1 佐藤幸次郎 三三八点

2 徳山 靖 三二九点

3 江崎 和宏 三〇三点

● 軟式野球

八月十九日、二十日、十六日
 中大グラウンド跡地・開進第二中

参加チーム

一般 一七四チーム

中学 一七チーム

参加人員 三四〇〇人

● 一般の部

準々決勝

西武鉄道 2-1 全大泉

宮原電気 1-0 大恵

豊漢OB 1-1 東京アロン

(抽籤により決定)

張替カントリーズ

8-2 練馬クラブ

準決勝

西武鉄道 2-0 宮原電気

張替カントリーズ

6-8 豊漢OB

決勝

西武鉄道 1-0 張替カント

リーズ

一回の裏、西武は一番渡辺が四球で出塁、すかさず盗塁して無死二塁のチャンスに、二番高木とのバント、エンド・ランが成功、先取点をあげる。一方張替は、四回無死で一番方波見(誠)が四球で出てすぐ盗塁。この絶好機に、三番とのスクイズが失敗、唯一のチャンス逃がした。以後、両チームの投手が好投、無得点に終った。張替は、西武川村投手に二安打、西武も二回以後、立直った張替西投手の前に二塁も踏めず、散発二安打。結局初回の一点がものを云い、一対〇で西武鉄道、練馬が優勝した。

少年の部

- 準々決勝
- 開進クラブ 8-0 黒百合
 - 金線馬 6-0 田柄
 - 高松クラブ 7-1 ホワイ
 - ゴールデン富士 6-0 城北
- 準決勝
- 開進クラブ 5-1 田柄
 - ゴールデン富士 1-1 高松
- 決勝
- 開進クラブ 2-0 ゴールデ
 - ン富士

スキー競技

一月十四日 長野県木島平スキ
ー場、牧の入ゲレンデ

- 参加 七十七名
- 男子一部(二七才以下)
- 辻 功 五秒四
 - 中 富夫 五秒〇
 - 片岡 秀夫 六六一秒三
- 女子一部(二七才以下)
- 山岸 昭子 四一秒六
 - 古川 洋子 四二秒九
 - 田中美絵子 四四秒六
- 男子二部(二七才以下)
- 有村健二郎 五一秒七
 - 亀井 光 五六秒〇
 - 石田 昌男 五八秒五
- 女子二部(二七才以上)
- 白井 敏子 三七秒〇
 - 辻 みきと 四〇秒五
 - 高橋マサ子 五七秒四
- 男子三部(三五才以下)
- 高橋 精一 五二秒七
 - 高橋 良 七九秒二

男子四部(四五才以上)

- 田口 誠治 三五秒七
 - 斎藤 元雄 三八秒五
 - 垣内 光夫 三八秒七
- オープン初級
- 村越 宏子 二三秒七
 - 香川ひさし 二三秒五
 - 金丸 活也 二四秒〇
- オープン中級
- 田中 零子 二一秒一
 - 田口 清 二一秒七
 - 武内 恵子 二一秒九

スケート競技

一月三日(日)
富士高原・アイスパーク

- 参加者 一〇〇名
- 少年男子スピード 五〇〇米
- 堀谷 崇之 一分一七秒五
 - 巻幡 豊人 一分四一秒二
 - 太田 孝 一分四四秒〇
- 一般男子スピード 五〇〇米
- 山本 中 一分〇七秒四
 - 橋 恒雄 一分〇八秒一
 - 鹿田 輝雄 一分二三秒六
- 一般男子スピード 一〇〇〇米
- 藤巻 教丈 一分五八秒三
 - 今野 文隆 一分五八秒五
 - 鹿田 輝雄 二分〇四秒一
- 初心者男子スピード 一〇〇米
- 初心者女子スピード 一〇〇米

少林寺拳法競技

十二月二日・中村中学校体育館
一般有段者の部

- 松村 輝久 五段
 - 遠藤 登 四段
 - 寺浦 利明 三段
 - 野沢 博 二段
 - 阿部 勉 二段
 - 潮田 康郎 初段
- 一般級拳士の部
- 森 一延 三級
 - 風間 幹夫 三級
 - 田中 享二 一級
 - 鹿見島寿規 一級
 - 柴田 保志 三級
 - 大寺 英夫 三級
- 年少の部
- 金子 敦彦 六級
 - 新井 大和 六級
 - 高橋 政也 四級
 - 草地 芳久 二級
 - 辻村 真一・田島 宏行
 - 渡辺 昇一・渡辺 健次
 - 宗形 好子・田中 明成
- 女子の部
- 篠塚 理佳 初段
 - 高崎 祐志 初段
 - 酒井 頼子 三級
 - 小島 加南 三級
 - 田島 栄 三級
 - 落合 珠実 三級
 - 落合 由美B 三級

区スポーツ少年団

区水泳連盟・四月に発足

本協会創立三十周年記念事業として、昨年来よりそれぞれ準備委員を設立、すゝめて来た。
練馬区スポーツ少年団の創立
練馬区水泳連盟の設立
は、それぞれ四月上旬、発足のメドもつき、最終段階に入った。
● スポーツ少年団
各加盟団体代表と体協事業部を中心にした委員と四回にわたる

協議により本部規定並に「内規」案が決定、二月末日を目標に、加入少年団の編成に入った。
● 水泳連盟
水泳関係者、温水プール自主グループ代表、民間クラブ代表、体協代表で編成した準備委員会は、昨年来より四回の会議を持ち、規約案が決定、二月末日に加入団体の集計に入った。

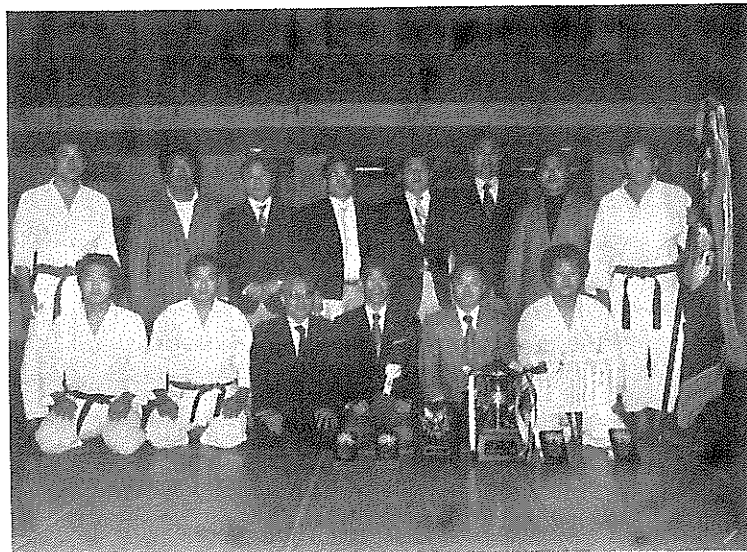
体協、関係者、新年会

昭和十五年の体協新年会は、一月二十五日(金)午後六時より、豊島園「それゆへ」に於て、区長、議長を始めとする来賓、加盟団体の代表が出演となり開始された。艶歌に、民謡に、カラオケをバックに各代表十五名がその美声を競った。成績は次の通り

歌謡大賞 小沢(卓球)
歌唱賞 片寄(柔道)
芸術賞 山田(会長会)
最少得点賞 松本(アイス)!!
優秀審査員賞 松村(剣道)
小口会長より、それぞれの賞品が手渡された。

● 第二部 オクシジョン
参加者に対し、一品一つの寄贈品を希望し、集った品七十点に
団体対抗の自慢大会

いて、「せり」にかけての販売が開始された。司会に寺崎（スキ）「せり」は本間（サッカー）松井（野球）記録に堀内（フアチエリ）佐藤（陸上）の各代表が担当。いずれにしても品数は多く、時間は一時と限られており、係は声をばらしての大安売、またたく間に一品残らず、完売となった。総売上金額 一二七、六〇〇円最後に奥山則男副会長 挨拶 奥田直輔副会長 万才三唱



優勝の練馬区代表選手団

をもって、歌に、午後七時十五分、三時、新年会は、終了した。五十三年は五十名、前年が七十五名、今年は一〇名と関係者の出席は盛登り、その内容も、新企画により大いに盛り上がり、体協の充実ぶりを物語っていた。全スポーツを統合した、スポーツファミリー、練馬区体育協会は、全加盟団体が一致協力、区体育行政の一たんを荷って、区民のための体力増進に、各競技の普及に、昭和五十五年も邁進いたしました。（野口）

第二十四回東京都二十四地区対柔道大会

練馬区、念願の優勝を達成 都民大会、城北五区と三冠に輝く

第二十四回東京都二十四地区対柔道大会は、十二月二日（日）午後一時より溝道館で開催された。この大会は都内二十三区と多摩の郡下を一区とし対抗競技で、東京都に於ける柔道競技会では非常に権位ある大会です。今年度練馬区柔道会は、第三回都民大会に二年連続優勝（三回目）城北五区大会には、二十八回中、十四回優勝と云う、抜群の成績を収めておりますが、残念ながらこの24地区対抗のみ優勝の実績がなく、この優勝は、悲願であったと云えましよう。

監督 佐久間和男
選手 玄馬 章弘 初段 自衛隊
森下 俊二 初段 大泉高
藤木 明美 二段 一般
齋藤 剛生 二段 明大
浅生 正人 三段 一般
以上のベストメンバーで出場した。
一回戦 不戦勝
二回戦
練馬区 2-1 中野区
準々決勝
練馬区 2-1 板橋区
準決勝
葛飾区 0-0 墨田区

代表戦で葛飾の勝利
練馬区 1-0 世田谷区
玄馬 引分け 安田
森下 引分け 長谷川
藤木 引分け 小野瀬
齋藤 引分け 千代田
浅生 小外刈 磯貝
決勝
練馬区 2-1 葛飾区
・玄馬 大外刈 茶谷
森下 内股 茂山・
藤木 足払 鈴木
齋藤 引分け 加藤
浅生 引分け 楠
予選から決勝・優勝までの道は、決して楽な内容ではなかった。佐久間監督を軸としてのチームワークの優勝と云えよう。
表に二十四年の悲願であった、本大会の優勝は、柔道会にとって未踏の大記録の達成であり、都内の全くの柔道会にも、未だ一度も記録されていない、練馬体育史上にサンとして輝き、不滅の記録として残ることでしよう。

- 第五回練馬区 剣道大会
十一月二三日、区総合体育館
小学四年以下
1 小俣 真弘 東松館道場
- 小学生五、六年
1 青木 宏泰 大泉第四道場
2 鎌滝 祐次 東松館道場
3 中別 浩 大泉剣友会
山浦昇一郎 丸山剣友会
- 中学生
1 秋山 英城 田柄剣道会
2 北山 文則 東大泉剣道会
3 星 秀幸 東松館道場
青木 孝之 大泉第四道場
- 一般
1 小島 利昭 練馬警察署
2 高橋 吉次 田柄剣道会
3 岡元 義人 北町自衛隊
山口 孝正 練馬警察署
- 六段
1 羽角 孝郎 石神井剣友会
2 佐々木和一 練馬警察署
3 谷川 敏 丸山剣友会
松本 上 石神井剣友会
- 団体
少年の部
1 東松館道場
2 丸山剣友会
3 大泉剣児会
中村少年剣友会
一般の部
1 練馬警察署 B
2 練馬剣友会
3 練馬消防署 A
協和銀行剣道部

世界へ翔ぶ・練馬の星

柔道 石川裕章 五段
世界（軽重量級）第四位

昨年十二月、パリに於て開催された「第十二回世界柔道選手権大会」に軽重量級の日本代表として出場、第四位に入賞した石川五段を、勤務先、世久間接骨院に訪ねてもらった。

プロフィール
出身地 静岡県、清水市
現住所 練馬区向山四ノ三六
出身校 中央大学、法学部
身令 二十七才
身長 一八三cm
体重 九五kg



全日本体重別選手権大会で優勝の石川選手（後列右より2人目）

◎柔道を志した動機は、四才上の兄が柔道をやっておりその影響です。兄弟ゲンカよく投げとばされました。

◎学校は、清水市の興津小学から、興津中学校、県立清水東高校、中央大学です。

◎いつから柔道をその成績は、中学一年から初め、二年で初段をとりました。

◎高校二年で二段・三年の時、県高校大会・個人で優勝、全国高総体ではベスト8に入りました。

◎主な戦歴は、

中央大学二年でレギュラーになり、全日本学生選手権大会、第三位

全日本ジュニア選手権大会（二才未満）で第二位

東京都学生体重別選手権大会 軽重量級、優勝
無差別級、優勝

◎全日本選手権大会には、全日本体重別大会に、昭和四十九年から軽重量級に出場、全日本選手権大会には、昭和五十年から出場しています。

◎国際大会への出場は、

昭和五〇年、ユニバーシアード 柔道大会（ヘルギー）優勝
昭和五一年 国際大会（フビエト）二位
昭和五二年 国際大会（ハンガリー）優勝

昭和五四年 国際大会（フビエト）

昭和五四年 第十一回世界選手権大会（フランス）第四位

◎今の目標は、

モスクワオリンピックへの出場
三月から始る、各大会へ出場しオリンピック予選会をへて、最終予選となる「全日本選抜体重別選手権大会」に

軽重量級（八六kg、九五kg）で出場、なんとしても、日本代表の栄を勝ちとりたい。

現在、石川選手は、毎日、午前中は練習（警視庁）、午後二時から仕留の日報をくりかえしている。

この石川選手を語るには、その陰での、よき理解者で先輩でもある佐久間和男氏を忘れることは出来ない。

佐久間氏は向山にて「佐久間接骨院」を経営、柔道会、理電。体育協会、理電として、区体育行政の第一線で活躍されている。

一方、石川選手の先輩として、彼の栄光への道に、全面的にバックアップしている。

現在、石川選手が、何んの心配もなく、日々の練習に励むことが出来るのは、佐久間氏の協力以外、なにもない。

スポーツは、一にも、二にも練習の積み重ねなのです。社会人として、生活と、スポーツの両立、これ程むずかしいものはない。

佐久間氏の理解をえて、毎日の練習時間の確保には、何んの心配もない。その上、仕留の面でも、よき師であり、恵まれた環境の中、石川選手は、その夢をモスクワに、激しい日々の練習に、全てをかけて闘っている。

◎将来の設計は、

現在、佐久間先生の所で、柔道整復師として、最後の勉強に入っており、ほぼ、修得すべきものも身について参りました。

目標とする「モスクワ・オリンピック」をもって一応の線をひき、次は社会人として一本立ちしたいと考えています。

出来れば、父母の住む、清水に帰り、接骨院を開業、生活の基盤をつくと共に、郷里のため

又、永い間お世話になった柔道界のために、少しでも恩返しが出来ればと思っています。

この十五年間をふりかえる時、幾度かやめようかと思つたこともありますが、それを乗り越えた自信は、人生の全てに通じると

思います。

頑張れ、石川選手！！

（野口）

東京都練馬区中村北一一九
練馬区体育協会
代表 小口 政雄
編集 野口 嘉郎
TEL 九九三一一二一一767